

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2290700059		
法人名	社会福祉法人 信愛会		
事業所名	グループホーム菜の花ホーム 1Fユニット		
所在地	静岡県伊豆市小土肥787-2		
自己評価作成日	平成 29年 10月 9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action kouhou pref search list list=true&amp;refCd=22">http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action kouhou pref search list list=true&amp;refCd=22</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 29年 11月 9日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居者の生活歴、生活スタイルを大切に、その方に合った生活が出来るように支援しています。地域とのつながりが切れることのないように、なじみの商店への買い物や行きつけの床屋などの利用を継続できるように支援しています。特養と隣接している利点を活かし、防災訓練等、他部署のスタッフと協力し、すぐに駆けつけられる建物構造となっており、協力体制をとっています。入浴も半器械浴を導入しており、身体状態に合わせた入浴が可能です。小高い丘陵に位置し、日当たりが良く、食堂や居室から見える海岸美や夕日は類を見ない美しさです。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

グループホームの建物の中から、伊豆の山、川、海、田畑が見え、里山の風景広がり、ほとんどの利用者が子どもの頃から慣れ親しんだ景色がそこにはある。地域の要望でできた事業所は地域の住民の協力も厚く、防災や行事で連携して事業所主催のお祭りには多くの住民が参加。開設当初からの職員も多く、お互いに良さを認め合いながら何でも言いあえ、働きやすい環境である。運営推進会議では家族の参加も多く、地域の代表も参加、活発に意見や要望が出される。施設側も出された意見や要望には真摯に答えている。排泄表の工夫や職員の地道な声かけで紙パンツ使用者が次第に布パンツに改善されている。介護計画の参考になるアセスメントシートやバイタルチェック表、排泄表など独自にわかりやすく改善され細やかに記録し、利用者が穏やかに暮らせるように配慮されている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしく暮らせる家庭的な生活の実現」を理念とし、毎日の生活が心穏やかに過ごせるように努め、毎日必ず見る場所に掲示している。内部研修において勉強会として扱い、共有認識に努めている。	開設時に職員で話し合い作り上げた理念を継続している。職員が必ず目にするようタイムカードがある場所に掲示し、毎日の唱和や研修でも理念について掘り下げ、職員全員が共有しケアに繋げるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事のお祭りに参加したり、小学校の運動会に参加したり、地域学生と交流の機会を持っている。地域のボランティアを招いて三味線や踊りなどを楽しんだり、スタッフの演芸の指導をさせていただいたりしている	地域住民の要望で作られた事業所ということもあり、地域に密着し日常的にボランティアの訪問も多い。事業所のお祭りには地域住民が訪れ、地域の行事や小学校の運動会には職員と一緒に利用者も参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生の福祉体験などを受け入れている。また、地域ケア会議へ参加し、認知症の方との関わり方などを地域の方と話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度行っている。利用者本人・利用者ご家族・地域の民生委員・行政の方に参加していただき、おやつ作りや大掃除などを同時開催し話しやすい雰囲気を作るように努力している。いただいたご意見を業務に反映している。	家族にも多数参加してもらえるよう行事と合わせて行うように日程調整し、2ヶ月に1度開催している。民生委員からは地域の報告や意見をもらい業務に反映している。議事録の内容を職員会議で取り上げ話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に行政の方や地域包括支援センターの職員に参加していただき、取り組みの様子や入居者の状況、苦情・事故などを報告しご意見を頂いている。	運営推進会議や行事に、行政や包括センターの職員が参加したり、困難事例の相談に施設長が出向いたり、意見をいただき協力関係を築いている。研修のお知らせも、郵便やFAX、メールでもらい、参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の職員研修や新入職員研修、会議において周知徹底している。マニュアルを用いて勉強会を開き、意識付けしている。	新人研修で前期、後期と時期をずらして力を入れて研修している。また、マニュアルの読みあわせをしたり、法人内研修でも取り上げている。気になる場合は職員同士で注意し、会議で取り上げて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

静岡県(グループホーム 菜の花ホーム 1階 )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の職員研修や新入職員研修、会議において周知徹底している。必要があったらすぐに地域包括支援センターに相談するように連携を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	申し込みの窓口である介護支援専門員は理解している。対象者がいないので実践にいたっていないが、自主研修で学んだ事を内部研修で全スタッフへ研修報告として伝え、制度の概要は周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず席を設け、個々の不安や疑問点にしっかりと回答できるように配慮しながら説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者本人・家族に参加していただき、希望や困りごとなどを気楽に話し合える雰囲気を作り、意見をいただき業務に反映させている。会議に参加できないご家族から、事前に提案や質問を頂く事もある。	運営推進会議に家族の参加を促したり、参加できない家族の意見は事前に聞いている。家族からの意見で写真掲載の同意書を簡素化や、光熱費の見直しなど改善した例がある。また、事業所で家族が食事できる機会を作った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的な困りごと等を相談しやすいように、内部研修とは別にユニット会議を実施している。勤務の都合等で当日参加できないスタッフも意見や相談がしやすいように、会議の前に会議用のシートを用意して置いておき、記入した内容を検討しフィードバックしている。	職員は1階、2階それぞれの階担当制ではあるがユニットで連携している。ユニット会議では担当職員に利用者の様子を事前に書いてもらい沢山の意見が出ている。会議で出た意見や提案を検討し反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要時に個別の面談を行い、職場環境・条件の整備に努めている。目標シートを用い、本人の目標を明らかにし、それに沿った助言をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	そのスタッフに合った施設内外・法人の研修に参加してもらい、知識・技術の向上に努めている。自主的に参加する意欲を引き出す為、研修の情報等を掲示などで紹介している。		

静岡県(グループホーム 菜の花ホーム 1階 )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市内のグループホーム事業所の職員と3～4ヶ月に1度程度交流し、勉強会や、情報交換などを行い、共に質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護支援専門員が家庭へ訪問し、本人の不安や要望を聞き、不安な点が少しでも軽減されるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護支援専門員が家庭へ訪問し、家族の不安や要望を聞き、不安な点が少しでも軽減されるように努め、要望を取り入れたプラン作成をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時、現在の状況を聞き、その方にとってグループホームの入居が望ましいのかを検討している。又、必要に応じてサービスを紹介したり、相談窓口を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を中心としたサービスの提供に努め、個別の能力に合った家事を自然に自分で行えるように共に活動し、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常的な出来事を面会時などに報告したり、電話で連絡し、情報を共有している。利用者を支える同じ立場として捉え、共に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの床屋へ出かけている。家族だけでなく、親戚や友人の面会がある。地域の方と交流した写真やビデオなどを見て話題にしている。また日用品は地域の商店で購入するようにしている。	入居前からの馴染みの床屋へ出掛けたり、日用品は近所の商店を利用するなど馴染みの関係を継続できるよう支援している。ご近所に住んでいた方の面会があったり、事業所内の他のサービスを利用している知人に会いに行ったり柔軟に対応している。	

静岡県(グループホーム 菜の花ホーム 1階 )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者同士で外出したり、家事の役割を分担して協力しあったり、相互の助け合いが自然にできるように支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中であれば見舞いへ行き、家族からの相談などを傾聴している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現場のスタッフは本人との対話の中から希望を聞き取るよう努め記録に残している。担当スタッフやサービス計画担当者等はそれをアセスメントシート等に取り入れている。ユニット会議では日常的に本人本位で考え、どうしたら本人にとって快適であるかを検討する事を意識している。	記録方法を見直し、誰が見てもわかりやすく、記入に時間がかからないようなシートを活用し職員で意見交換ができるようにしている。また、気づきを詳しく文章化し、ユニット会議では入居者本人の気持ちになって考えることを意識して話し合い、どうすることが本人にとって一番いいのかを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時やアセスメント時にこれまでの生活歴や暮らし方を聞き、日常生活に反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録や申し送りノートを読み、全スタッフが現状を把握できる体制になっている。又、ユニット会議において入居者それぞれの現状について話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当のスタッフを中心に、毎月モニタリングをしている。現場のスタッフは本人の意向を反映させる為に、相談や報告を随時行う雰囲気があり、必要時にはプランの見直しを行っている。作成前には身元引受人と電話などで相談し、プランに反映している。	利用者の介護記録を見直し、一覧表にすることで利用者の変化がわかりやすくなった。職員は本人、家族の意向をふまえ、医師や訪問看護師の意見を取り入れ、計画を作成し毎月モニタリングをし見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の個別のケース記録に記載し、情報を共有し、介護計画の見直し等の参考にしている。		

静岡県(グループホーム 菜の花ホーム 1階 )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフによる受診の対応や、本人や家族の希望に合わせた外出の支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員や住民などから、地域の行事や新しい店などの情報を聞き、楽しむ事ができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、入居者本人又は家族にこれまでの主治医を継続したいのか、それとも協力医療機関の主治医(月2回の在宅時医学総合管理事業の利用)に変更するのかを決めていただいている。	殆どの利用者は訪問診療医に受診してもらっている。入居前からの主治医に受診は家族対応。利用者の様子はシートとコメントを書いた用紙を医師に渡してもらい、受診結果は家族から聞いて記録し職員が共有している。歯科医師の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一人一人の健康状態を把握し、毎週定期的に訪問する訪問看護師に相談している。24時間連絡が取れる体制を作っており、日常的に電話で相談や報告をして指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院の相談員と連絡を取り合い、状態の確認をしている。主治医・家族との話の場に同席させていただき、より正確な情報の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化対応・終末ケア対応指針の説明と同意を取り、その時が来たら再度説明をし、家族の希望を確認している。、医師や看護師を交えた担当者会議を開き、チームで取り組んでいる。	入居時に指針を説明、同意をもらっている。重度化や終末期の対応は状態変化時に、医師、家族、職員で話し合い方針を決定する。職員は看護師の内部研修で経験もあり、後日「しのぶ研修」で思いを共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応のマニュアルを配布・掲示して周知を図っている。又、入居者で新たな病気が出た時など必要時にはその病気について研修し対応を検討し共有している。		

静岡県(グループホーム 菜の花ホーム 1階 )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回、特養と合同で防災訓練を実施している。隣接した母体である土肥ホームは地域の避難所となっており、協力体制が整っている。	母体法人の防災委員より災害対策についての方法や訓練の報告をもらっている。事業所全体で毎月、火災・地震・津波・土砂くずれ・火事、昼夜のいずれかの訓練を行っている。避難トリアージの工夫や備品も完備され、地域の話合いに参加し協力体制もできている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時に研修を行い、職員一人一人が自覚し対応している。本人の訴えに対して否定をせずに受け入れるようにするなど、日々の言葉かけについて注意し、互いに指摘しあうようにしている。	接遇研修やユマニチュードを取り入れている。スピーチロックに関しては特に厳しい視点でとらえ、取り組んでいる。研修の成果を発表する機会があり、職員全員でさらなる上を目指している。	日頃より職員はお互いに注意しあい、努力しているが、まだ一部の職員があと一歩という状況です。何でも言い合える職員関係であるとのことから注意しあい、更に向上することが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り自己決定ができるように支援している。言葉遣いや声のトーンなどに配慮して本人の答えやすい聞き方をしたり、表情やしぐさなどから希望を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴等、本人のペースで対応している。又、日光浴や散歩を希望に沿って実現できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に寝巻きから日常着に着替え、鏡の前で髪を梳かしたり、ひげを剃ったりしている。イベントや外出時にはお化粧したりおしゃれ着に着替えて出かけるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	米研ぎ・盛り付けなど可能な限り入居者とともにやっている。好みに合わせて味付けを調整したり、食べやすい形態に加工したりしている。調理している香りを感じながら、食事の時間を楽しみに待つ雰囲気を作っている。	野菜の下ごしらえ、下膳、テーブル拭き、茶碗洗いなど職員の声かけと共に利用者が自然に行っている。厨房から運ばれたものをユニットで盛り付けている。利用者が楽しんで食事ができるように「全国名物料理」など工夫を凝らしたものが提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の栄養管理は併設事業所の管理栄養士の立てた献立の食事を提供している。又、毎食の食事摂取量や水分摂取量を確認し記録している。		

静岡県(グループホーム 菜の花ホーム 1階 )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。自力での洗浄が困難な入居者にはスタッフと共に洗浄を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせたトイレ誘導や介助を行っている。排泄チェック表を使用し本人の排泄時間を把握し、訴えのできない入居者でもトイレでの排泄をしてもらえるよう努め、オムツ使用から布パンツに切り替えができています。	排泄チェック表を活用し、体調を見て、利用者個々に合わせたトイレ誘導、介助を行っている。なかなか訴えない方の様子を見逃さないようにトイレ誘導を行っている。バットを上手に使いながら、全員布パンツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排泄チェック表を使用し、日々の排便チェックを行い、状態を把握している。便秘がちな入居者には運動を促したり、オリゴ糖やファイバーなどの食品を食べていただいたり、起き抜けに冷たい水を飲んでいただいたり、個々に合わせた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっていない。希望に応じて実施している。期間が開いてしまった入居者に対してはスタッフ側から誘いかけている。	入浴日は最低でも週2回は入浴してもらい足湯も活用する。希望の方には敷地内の入浴施設で温泉に入っている支援をしている。入浴中は利用者と職員が会話を楽しみ、利用者の体の様子を観察して介護計画に取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前夜の睡眠状況や日中の様子などを把握し、状況に応じて声かけ・促しをする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の説明書を全スタッフが確認できるようにしている。又、医師や訪問看護師に確認したい内容をノートにまとめ、都度、医師や訪問看護師に確認できる体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や本人の心身の状態をヒントに、一人ひとりに合った生活や活動を支援している。		



静岡県(グループホーム 菜の花ホーム 1階 )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日用品の買い物に馴染みの商店でかけ地域の住民の協力を得ている。ソフトクリームを食べに行ったり、花見に出掛けたり、地域の商業施設の協力を得て外出している	外出の希望があると、できるだけ他の利用者も誘って出かけている。馴染みの関係の近所の商店では利用者に支払ってもらう。家族も誘ってドライブに出かけたり、重度の利用者には個別にドライブを楽しんでもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、所持している入居者はなし。希望があれば支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい、手紙を出したいという希望があった際には支援している。敷地内にポストがある。遠方の家族からの手紙について、本人が読む事ができない場合は読んでさしあげ、メッセージカードや絵手紙は本人の希望通りに飾るお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木目調の造りで、日当たりが良く、温かみがある。掃除や洗濯は入居者と共に実施し、外気の丁度良い時間に換気して、不快なく過ごせるように支援している。要所に温湿度計を置き、施設全体の温度と湿度の管理に努めている。又、季節を感じられるような花や置物などを飾っている。	日当たりの良いリビングから山、川、海、田畑、家々が見渡せ、四季が感じられる。ペランダも広く自由に出入りができて、外気を感じながら歩行し適度な運動が行える。職員と利用者はお花の手入れをしたり、室内の装飾を作ったりと楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは入居者が自分の居場所としてくつろげるよう椅子や机を配置している。食事スペース以外に洗濯物をたたんだりTVを見たりするスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを可能な限り持ち込んでいただいている。自宅での配置などを考慮し、家族・本人とともに配置を工夫している。本人の身体状態の変化に合わせ、寝具などの変更を提案し、より快適に過ごせるよう配慮している。	住み慣れた環境で生活できるよう居室に使い慣れたタンスやこたつを持ち込み、本人、家族に聞きながら、入居前の動線に近づけるよう配置している。居室のカギは内外から開閉できプライバシーに配慮されて、ナースコールもついている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	希望により、居室の前に表札代わりに本人の写真を掲示している。出入りに困らないように、玄関にはわかりやすい位置に案内を表示している。食事のメニューを利用者に書いていただき、見やすい場所に掲示している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290700059		
法人名	社会福祉法人 信愛会		
事業所名	グループホーム菜の花ホーム 2Fユニット		
所在地	静岡県伊豆市小土肥787-2		
自己評価作成日	平成 29年 10月 9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;refCd=22">http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;refCd=22</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 29年 11月 9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の生活歴、生活スタイルを大切に、その方に合った生活が出来るように支援しています。地域とのつながりが切れることのないように、なじみの商店への買い物や行きつけの床屋などの利用を継続できるように支援しています。特養と隣接している利点を活かし、防災訓練等、他部署のスタッフと協力し、すぐに駆けつけられる建物構造となっており、協力体制をとっています。入浴も半器械浴を導入しており、身体状態に合わせた入浴が可能です。小高い丘陵に位置し、日当たりが良く、食堂や居室から見える海岸美や夕日は類を見ない美しさです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム菜の花ホームは、西伊豆土肥の伊豆市、沼津市、富士市を中心に12の施設、事業所を持つ社会福祉法人の一員です。菜の花ホームは伊豆市小土肥の西海岸近くの丘陵地に特別養護老人ホームなどの施設でグループを形成しています。そして「自分らしく暮らせる家庭的な生活の実現」を目指しています。施設は2階の渡り廊下で特養施設とつながり自由な行き来ができます。各室の前は広いベランダで、西伊豆の青い海、土肥桜の並木、菜の花畑が見渡せます。このような自然環境のなか、職員は生き甲斐のある、安全、安心な生活、地域との交流のある暮らしを提供しようと努めています。また構内には温泉付き一般用宿泊施設もあり、面会者らに喜ばれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしく暮らせる家庭的な生活の実現」を理念とし、毎日の生活が心穏やかに過ごせるように努め、毎日必ず見る場所に掲示している。内部研修において勉強会として扱い、共有認識に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事のお祭りに参加したり、小学校の運動会に参加したり、地域学生と交流の機会を持っている。地域のボランティアを招いて三味線や踊りなどを楽しんだり、スタッフの演芸の指導をしていただいたりしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生の福祉体験などを受け入れている。また、地域ケア会議へ参加し、認知症の方との関わり方などを地域の方と話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度行っている。利用者本人・利用者ご家族・地域の民生委員・行政の方に参加していただき、おやつ作りや大掃除などを同時開催し話しやすい雰囲気を作るように努力している。いただいたご意見を業務に反映している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に行政の方や地域包括支援センターの職員に参加していただき、取り組みの様子や入居者の状況、苦情・事故などを報告しご意見を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の職員研修や新入職員研修、会議において周知徹底している。マニュアルを用いて勉強会を開き、意識付けしている。		

静岡県(グループホーム菜の花ホーム 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の職員研修や新入職員研修、会議において周知徹底している。必要があったらすぐに地域包括支援センターに相談するように連携を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	申し込みの窓口である介護支援専門員は理解している。対象者がいないので実践にいたっていないが、自主研修で学んだ事を内部研修で全スタッフへ研修報告として伝え、制度の概要は周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず席を設け、個々の不安や疑問点にしっかりと回答できるように配慮しながら説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者本人・家族に参加していただき、希望や困りごとなどを気楽に話し合える雰囲気を作り、意見をいただき業務に反映させている。会議に参加できないご家族から、事前に提案や質問を頂く事もある。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的な困りごと等を相談しやすいように、内部研修とは別にユニット会議を実施している。勤務の都合等で当日参加できないスタッフも意見や相談がしやすいように、会議の前に会議用のシートを用意して置いておき、記入した内容を検討しフィードバックしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要時に個別の面談を行い、職場環境・条件の整備に努めている。目標シートを用い、本人の目標を明らかにし、それに沿った助言をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	そのスタッフに合った施設内外・法人の研修に参加してもらい、知識・技術の向上に努めている。自主的に参加する意欲を引き出す為、研修の情報等を掲示などで紹介している。		

静岡県(グループホーム菜の花ホーム 2階 )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市内のグループホーム事業所の職員と3～4ヶ月に1度程度交流し、勉強会や、情報交換などを行い、共に質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護支援専門員が家庭へ訪問し、本人の不安や要望を聞き、不安な点が少しでも軽減されるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護支援専門員が家庭へ訪問し、家族の不安や要望を聞き、不安な点が少しでも軽減されるように努め、要望を取り入れたプラン作成をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時、現在の状況を聞き、その方にとってグループホームの入居が望ましいのかを検討している。又、必要に応じてサービスを紹介したり、相談窓口を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を中心としたサービスの提供に努め、個別の能力に合った家事を自然に自分でできるように共に活動し、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常的な出来事を面会時などに報告したり、電話で連絡し、情報を共有している。利用者を支える同じ立場として捉え、共に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく、親戚や友人の面会がある。地域の方と交流した写真やビデオなどを見て話題にしている。また日用品は地域の商店で購入するようにしている。遠方の家族と電話で毎日話ができるように支援している。		

静岡県(グループホーム菜の花ホーム 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	仲の良い入居者同士で外出したり、家事の 役割を分担して協力しあったり、相互の助け 合いが自然にできるように支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の 経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中であれば見舞いへ行き、家族からの 相談などを傾聴している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	現場のスタッフは本人との対話の中から希 望を聞き取るよう努め記録に残している。担 当スタッフやサービス計画担当者等はそれ をアセスメントシート等に取り入れている。ユ ニット会議では日常的に本人本位で考え、ど うしたら本人にとって快適であるかを検討す る事を意識している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	面接時やアセスメント時にこれまでの生活歴 や暮らし方を聞き、日常生活に反映してい る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録や申し送りノートを読み、全 スタッフが現状を把握できる体制になってい る。又、ユニット会議において入居者それぞ れの現状について話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	担当のスタッフを中心に、毎月モニタリング をしている。現場のスタッフは本人の意向を 反映させる為に、相談や報告を随時行う雰 囲気があり、必要時にはプランの見直しを 行っている。作成前には身元引受人と電話 などで相談し、プランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の個別のケース記録に記載し、情報 を共有し、介護計画の見直し等の参考にし ている。		

静岡県(グループホーム菜の花ホーム 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフによる受診の対応や、本人や家族の希望に合わせた外出の支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員や住民などから、地域の行事や新しい店などの情報を聞き、楽しむ事ができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、入居者本人又は家族にこれまでの主治医を継続したいのか、それとも協力医療機関の主治医(月2回の在宅時医学総合管理事業の利用)に変更するのかを決めていただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一人一人の健康状態を把握し、毎週定期的に訪問する訪問看護師に相談している。24時間連絡が取れる体制を作っており、日常的に電話で相談や報告をして指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院の相談員と連絡を取り合い、状態の確認をしている。主治医・家族との話の場に同席させていただき、より正確な情報の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化対応・終末ケア対応指針の説明と同意を取り、その時が来たら再度説明をし、家族の希望を確認している。、医師や看護師を交えた担当者会議を開き、チームで取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応のマニュアルを配布・掲示して周知を図っている。又、入居者で新たな病気が出た時など必要時にはその病気について研修し対応を検討し共有している。		

静岡県(グループホーム菜の花ホーム 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回、特養と合同で防災訓練を実施している。隣接した母体である土肥ホームは地域の避難所となっており、協力体制が整っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時に研修を行い、職員一人一人が自覚し対応している。本人の訴えに対して否定をせずに受け入れるようにするなど、日々の言葉かけについて注意し、互いに指摘しあうようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り自己決定ができるように支援している。言葉遣いや声のトーンなどに配慮して本人の答えやすい聞き方をしたり、表情やしぐさなどから希望を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴等、本人のペースで対応している。 又、日光浴や散歩を希望に沿って実現できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に寝巻きから日常着に着替え、鏡の前で髪を梳かしたり、ひげを剃ったりしている。イベントや外出時にはお化粧したりおしゃれ着に着替えて出かけるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	米研ぎ・味噌汁作り、盛り付け、掃除、布団干しなど、家事全般において可能な限り入居者とともにやっている。好みに合わせて味付けを調整したり、食べやすい形態に加工したりしている。調理している香りを感じながら、食事の時間を楽しみに待つ雰囲気を作っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の栄養管理は併設事業所の管理栄養士の立てた献立の食事を提供している。又、毎食の食事摂取量や水分摂取量を確認し記録している。		



静岡県(グループホーム菜の花ホーム 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。自力での洗浄が困難な入居者にはスタッフと共に洗浄を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせたトイレ誘導や介助を行っている。排泄チェック表を使用し本人の排泄時間を把握し、訴えのできない入居者でもトイレでの排泄をしてもらえるよう努め、オムツ使用から布パンツに切り替えができています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排泄チェック表を使用し、日々の排便チェックを行い、状態を把握している。便秘がちな入居者には運動を促したり、オリゴ糖やファイバーなどの食品を食べていただいたり、起き抜けに冷たい水を飲んでいただいたり、個々に合わせた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっていない。希望に応じて実施している。期間が開いてしまった入居者に対してはスタッフ側から誘いかけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前夜の睡眠状況や日中の様子などを把握し、状況に応じて声かけ・促しをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の説明書を全スタッフが確認できるようにしている。又、医師や訪問看護師に確認したい内容をノートにまとめ、都度、医師や訪問看護師に確認できる体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や本人の心身の状態をヒントに、一人ひとりに合った生活や活動を支援している。		

静岡県(グループホーム菜の花ホーム 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日用品の買い物に馴染みの商店でかけ地域の住民の協力を得ている。ソフトクリームを食べに行ったり、花見に出掛けたり、地域の商業施設の協力を得て外出している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、所持している入居者はなし。希望があれば支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい、手紙を出したいという希望があった際には支援している。敷地内にポストがある。遠方の家族からの手紙について、本人が読む事ができない場合は読んでさしあげ、メッセージカードや絵手紙は本人の希望通りに飾るお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木目調の造りで、日当たりが良く、温かみがある。掃除や洗濯は入居者と共に実施し、外気の丁度良い時間に換気して、不快なく過ごせるように支援している。要所に温湿度計を置き、施設全体の温度と湿度の管理に努めている。又、季節を感じられるような花や置物などを飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは入居者が自分の居場所としてくつろげるよう椅子や机を配置している。食事スペース以外に洗濯物をたたんだりTVを見たりするスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを可能な限り持ち込んでいただいている。自宅での配置などを考慮し、家族・本人とともに配置を工夫している。本人の身体状態の変化に合わせ、寝具などの変更を提案し、より快適に過ごせるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	希望により、居室の前に表札代わりに本人の写真を掲示している。出入りに困らないように、玄関にはわかりやすい位置に案内を表示している。食事のメニューを利用者に書いていただき、見やすい場所に掲示している。		